日本とつながりが深い国 カンボジア

学 校 名:東近江市立玉緒小学校 指導時数:9時間

名 前:伴 英孝 対象学年:小学校6年生

実践教科:社会、総合的な学習の時間 対象人数:49人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

私がカンボジアから得ることができたことは、渡航する前に紙面や伝聞で漠然と得たこと以上に、直接体験とともにたくさんのことを伝え教えてくれた感動や喜びである。現地で直接体験したことは私の想像をはるかに上回っていた。プノンペンの喧騒やシェムリアップでみたアンコールワットの遺跡群、地方には延々と続く田園風景。ワットボー小学校の児童の笑顔。でも、その裏には自分たちではどうしようもない現実があることも気づかされた。地雷が埋まっている国、それはいろいろな本やインターネットの情報から得ていたことである。しかし、それらを実際に除去する人たちの思いや現実を知れたことは、現地で初めて自分の体験として理解できたものばかりだった。

この体験をいかに日本にいる子どもたちや同僚の教職員へ伝えることができるか。自分なりに納得いく形を模索したいと思った。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

担任する学級の子どもたちは自分たちのこと以外にはあまり関心をよせない子どもたちが多い。「アフリカの国かな?」と子どもたちの第一印象はそんな縁遠い国としてのカンボジアだった。しかし、互いを知ることで、無から有へ、他人事から自分事へと意識を変化させることで、地球上にともに生きる人々が、日本や自分たちとどんなふうにつながっているのかを考えさせたい。

今回の実践では、できるだけ子どもたちが関心を持っていることを自分で調べられる機会を持てるようにした。そうすることで、他人から与えられたものよりも深くカンボジアを知ろうとする意識を持たせたいと考えた。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 カンボジアって どんな国?	●ものや写真からカンボジアの文化・習慣・学校の様子などを知る。●自分が疑問に思ったことや調べてみたいことは何か考える。	●写真 ●カンボジアのもの ●ワークシート
2・3 時限目 調べよう! カンボジア	●カンボジアについて興味をもったことを資料から調べる。班で情報を共有する。●調べたことを発表し、全体で情報を共有する。	●資料プリント ●ワークシート
4~6時限目 国際協力に携わる 日本人	●カンボジアがかかえる問題を知り、青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの活動紹介、NGO 団体の取り組みについて知る。●自分が疑問に思ったことや興味をもった人や活動について調べる。	●パワーポイント ●資料プリント ●ワークシート

7 時限目 はじめまして クメール語	●あいさつなどのクメール語を知る。●識字教室の存在を知り、その必要性を考える。	●映像●写真●ワークシート
8 時限目 国際協力と日本人	● JICA の方を講師に迎え、日本が行っている世界の 国々への国際協力について知る。カンボジアから世 界へ視点を向ける。	●パワーポイント●映像
9 時限目 いま自分たちが できること	●カンボジアの子どもと自分の大切なものを守るため に、自分たちができることを考える。	●映像●写真●ワークシート

3. 授業の詳細

1時限目:カンボジアってどんな国?

ねらい…写真や物からイメージを持たせ、カンボジアについて興味や疑問を引き出す

◆内容◆

- ① ものランゲージ…カンボジアから持ち帰ったものを使って何に使うものかを想像する。
- ② フォトランゲージ…班で写真を見て気づくことをいくつもあげる。日本との違いや共通点など。
- ③ 振り返り…興味関心をもったことや疑問に感じたことで調べてみたいと思ったことを整理する。



▲ ものランゲージ クロマーの使い方



- ▶ 5人乗りのバイクに驚きました。捕まらないのかな。
- ▶スーパーには日本製のものも売っていて日本と関係があるんだなと思いました。
- ▶ハンモックをつかったりしているからどんな生活の様子なんだろうと思いました。
- ▶カンボジアと日本違っているところがたくさんあって面白いと思いました。

◆所感◆

カンボジアの人々の生活の様子などを感じ取らせる授業として実践したが、日本と違ってカンボジア独特のものが多く子どもたちは興味を持っていた。子どもたちにとってできるだけ身近な内容(食べ物や学校の様子など)から入りたいと思ったので、スタートとしては上々だったと思う。

▼班で話し合っている様子



2・3 時限目:調べよう!カンボジア

ねらい…前時に興味をもったことや疑問に思ったことを関連の資料で調べ させ、カンボジアについての知識を広め深めさせる。 自分が調べたことについて班や全体で情報を共有する。

◆内容◆

- ① 興味をもった内容について資料から調べてワークシート**^{資料1}にまとめる。 生活・交通・児童労働・学校・年中行事・国・食べ物・言葉などの分野の資料を用意
- ②班で調べた情報を共有する。
- ③ 全体で情報を共有する。 調べたことでぜひみんなに知ってほしい情報を発表する。



- ▶日本の学校とはいろんな点で違うことがわかりました。二部制や落第があって驚きです。
- ▶ カンボジアではこどもも働いていることがわかりました。でも、なぜ働かないといけないのかなと思いました。
- ▶カンボジアのくらしは日本の昔のくらしに似ているなと思いました。牛がいたりする点。

◆所感◆

子どもたちは自分が興味をもったことについて意欲的に調べることができた。カンボジアの人々の様子が資料からではあるが、子どもたちなりに理解できてよかったと思う。ただ、すべての興味疑問に応える資料ではなかったので、もっと知りたいと感じた児童もいた。もう少し資料を幅広く用意できればよかった。

4~6時限目:国際協力に携わる日本人

ねらい…カンボジアで活動する日本人の活動を調べさせることで、カンボジアがかかえる問題を子どもたちにとってより身近な問題として意識する。

◆内容◆

- ① カンボジアがかかえる問題に対して国際協力を行っている日本人の活動をパワーポイントで紹介する。
 - ・伊藤明子さん(シニア海外ボランティア シェムリアップ州教育局)
 - ・田中千草さん(元青年海外協力隊 ワットボー小学校)
 - ・藤平じゅんさん (ERECON 職員 堆肥事業推進)
 - ・高山良二さん(元自衛隊 地雷除去活動)
 - ・森本喜久男さん(元友禅職人 IKTT 伝統の森)
- ②調べたことをワークシート**資料2にまとめ、班や全体で情報を共有する。



▲ ワットボー小学校で 指導されている田中千草さん



- ▶ カンボジアで活動する日本人がいることを知ってびっくりしました。でも、その人 たちのおかげでカンボジアの助けになっているのはうれしいと思いました。
- ▶内戦のためにいろいろなものを失ったけど、それにも負けず生きているカンボジア の人はすごいし、地雷撤去に日本から行く人もすごいなと思いました。
- ▶田中千草さんはカンボジアの子どもたちを助けるために一生懸命活動していることがわかりました。

◆所感◆

日本人がカンボジアで活動しているという事実は子どもたちに想像以上に響いていた。調べ学習では、意欲的にまとめようとする姿が見られ、遠く離れたカンボジアの国のことだが、日本人の活動を通して自分たちとつながっていると感じられた児童も多かったように思う。また、子どもたちなりにカンボジアがかかえる問題の大きさや深さを理解し、共感する姿が見られた。

7時限目:はじめましてクメール語

ねらい…クメール語で簡単なあいさつをして、体験的に学ばせる。 カンボジアの識字教室の様子を知り、その必要性や重要性をとらえさせる。

◆内容◆

- ① クメール語で自己紹介をしてみる。
- ② 識字教室の様子を映像で見る。なぜ識字教室が必要なのかその背景を考える。
- ③ 文字の読み書きができない場合の困難さを想像する。
- ④ 日本にも識字教室があることを知らせる。



- ▶いろいろな理由で学校に行けなかった人がいることが分かった。
- ▶大人が文字を勉強しているのに驚いた。でも識字教室があることで助かるひとがいるから必要なことだと思った。
- ▶文字が読めないと不自由なことが多いし、日本ではそういうことはあまりないのかなと思った。でも、日本にも識字教室があると知って勉強になった。

◆所感◆

いつもの英語と勝手がちがってクメール語は新鮮にうつった様子だった。文字もまったく読めないことや、発音を聞いても全く意味がわからないということは日本にいるとあまり体験しないことなので貴重な機会になったと思う。ただし、今回の内容を1時間でしたのは急ぎ過ぎた感があり、じっくりと考える時間が取れなかったことが反省点である。

8時限目:国際協力と日本人

ねらい…これまで学習してきたカンボジアからさらに世界に目を向け、世界中で活動する日本人の国際協力について知ることができるようにする。 ベネズエラで青年海外協力隊員として活動された JICA 関西・上井国 際協力推進員の話を聞き、国際協力の実際を知ることができるようにする。

◆内容◆

- ① JICA の取り組みについて解説
- ② ベネズエラでのボランティア体験談



▶ 上井さんによる解説



- ▶世界には1日1ドルで生活する人たちもいることをはじめて知りました。
- ▶こどもだからその場に行くのは難しいけど、手紙を書いたり応援したりすることは できるんだと思いました。
- ▶もっと世界を知って自分にできることがあれば知りたいと思いました。

◆所感◆

JICA って何だろうということから国際協力の必要性をわかりやすく解説していただいたので、子 どもたちにも大変勉強になった。また、ベネズエラでの体験談にはとても興味を持って聞き入っていて、 映し出される写真に大きな反応を見せていた。カンボジアから世界に向けて目を向けていってほしい と考え今回お話をいただいて貴重な機会となった。

9時限目:いま自分たちができること

ねらい…自分の大切なものやカンボジアの子どもが大切なものを守るために何 ができるか考える。 これまでの学習を振り返り学んだことを整理する。

◆内容◆

① ワットボー小学校の子どもたちの大切なものを知る。

- ② 自分の大切なものを改めて考える。**資料3
- ③大切なものを守っていくために自分にできることは何か考える。
- ④ これまでの学習を振り返って学んだことを整理する。

▶ ワットボー小の 児童の大切なもの 白転車





- ▶周りの人のこともそうだけど、世界で困っている人を少しでも助けられたらと思い ました。
- ▶ カンボジアの子どもも一生懸命生きていることがわかった。自分ができることを一 生懸命することが大切だと思います。
- ▶ これからもカンボジアのことを知っていきたいと思いました。それがわたしのでき ることじゃないかなと思います。
- ▶貧しくても笑顔が多いカンボジアの人が印象的でした。笑顔で過ごすって大切だと 思いました。
- ▶被災地の人を想うように、カンボジアの人のことを想う。

◆所感◆

ワットボー小学校の子どもたちの大切なものを知り、自分の大切なものについて真剣に考えようと する様子が見られた。以前聞いたときは、ものが多かったが、家族や友達など人とのつながりをあげ る児童が増えていた。また、大切なものを守っていくために自分ができることという視点で考える機 会も今までなかったので、一生懸命何ができるか考えている児童が多くうれしかった。

4. 成果と課題

児童にとっては遠い国であったカンボジアも、今回の学習を通して以前よりは身近に感じられる国となった点は大きな成果の一つと考えられる。チョムリアップスオーと子どもたちからクメール語の挨拶を交わす場面を見かけたり、アンコールワットや地雷について話す子どもたちの会話が聞こえてきたりするのは、今回の学習があったからこそだと思う。

また、国際協力という点でカンボジアと日本のつながりを意識して学習することで、国際協力の必要性や大切さを意識できたことも成果の一つだと思う。日本人の活動を通じて理解するきっかけが持てたことが効果的であったと考える。日本人がカンボジアや世界で活動していることを知って、自分も将来行ってみたいと思える児童がでてくることを願っている。

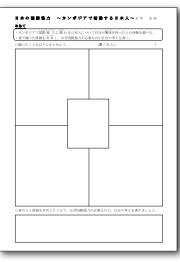
課題の一つ目は、今回自分が現地で感動したことをそのまま伝えることの難しさを体感したことである。行ってきた者が、見聞きしてきたことをそのまま伝えようとしてもうまくいかないと同僚から指摘を受け、なるほどと気づかされた。では、どうすればいいのか。結果として、子ども自身が何に興味をもっているのか、そのことを中心に学習をすすめることで、他人事ではなく、自分事として前向きに調べようとする姿を少しでも引き出すことができたのだと実感している。

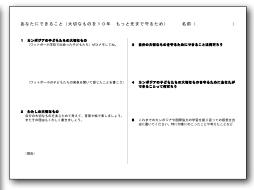
次に、今回の研修テーマである『持続可能な開発』について、どれほど授業実践でせまれたかという点では十分には満足できていない。授業構成や子どもたちの反応を再考し、よりテーマに迫れる内容を継続して検討していく必要があると感じた。また、自身が『持続可能な開発』について勉強していくこともやはり重要だと思った。これからも引き続き開発教育や国際理解教育について研鑽を重ねていきたいと思う。

参考資料

資料 2 資料 3







参考文献 「カンボジアの子どもたち(世界の子どもたちはいま)」学習研究社 「体験取材! 世界の国ぐに(18) カンボジア」ポプラ社 「カンボジア絹絣の世界〜アンコールの森によみがえる村」日本放送出版協会 「地雷処理という仕事」筑摩書房

参考ホームページ アナコットカンボジア(田中千草さん)

http://anacott.web.fc2.com/index.html クメール伝統織物研究所(森本喜久男さん)

http://iktt.esprit-libre.org/

映像で見る JICA ボランティア (伊藤明子さん)

http://www.jica.go.jp/volunteer/outline/movies/senior/

カンボジア地雷原の村での挑戦(高山良二さん)

http://ameblo.jp/takayamaryoji/

特定非営利活動法人 環境修復保全機構(藤平じゅんさん)

http://www.erecon.jp/